

## 建築材料等判断基準ワーキンググループとりまとめ(概要)

○断熱材(グラスウールと押出法ポリスチレンフォーム)の熱損失防止性能の向上を図るべく、新たな目標基準値を含む建材トップランナー制度の見直しについて審議し、結果を取りまとめた。

### 1. 本とりまとめ作成の背景

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて策定された第六次エネルギー基本計画(令和3年10月閣議決定)においては、「2030年以降新築される住宅・建築物について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指し、建材トップランナー制度における基準の強化等の検討を進める。」とされている。一方、断熱材(グラスウールと押出法ポリスチレンフォーム)については、平成25年12月のとりまとめを基に目標基準値等を設定し、熱損失防止性能の向上を目指してきたところであるが、今般のエネルギー基本計画等において定められた目標を受けて、目標基準値等の見直しが必要になっていたものである。

### 2. 対象となる断熱材(グラスウールと押出法ポリスチレンフォーム)の範囲

グラスウールについては、密度 $24[\text{kg}/\text{m}^3]$ 以上 $40[\text{kg}/\text{m}^3]$ の製品を新たに加え、JIS A 9521:2022で規定するグラスウール断熱材とする。

また、押出法ポリスチレンフォームについては、JISの改正を受け、JIS A 9521:2022で規定する押出法ポリスチレンフォーム断熱材とする。

### 3. 新たな目標基準値等

#### (1) 熱損失防止性能及び測定・計算方法

グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの熱損失防止性能(熱伝導率)の測定・計算方法は、JIS A 9521:2022により定める方法とする。

#### (2) 区分及び目標基準値

グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの新たな目標基準値については、2030年以降に新築される住宅・建築物に求められる省エネルギー性能を算出しており、目標基準値を5~6%程度引き上げることとなる。

具体的な区分と目標基準値は以下のとおり。

グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの区分と目標基準値

| 区分            | 目標基準値 $[\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})]$ |
|---------------|--|
| グラスウール        | 0.03942                                    |
| 押出法ポリスチレンフォーム | 0.03036                                    |

### (3) 目標年度

グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの新たな目標基準値に係る目標年度は2030年度とする。

### (4) 製造事業者等への規制

目標年度以降の各年度において製造事業者等が出荷するグラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの熱損失防止性能(熱伝導率)について、区分毎の出荷数量により加重平均した数値が、目標基準値を上回らないようにすることを求める。

## 4. 性能向上に向けた提言等

新たな目標基準値の下、グラスウール及び押出法ポリスチレンフォームの熱損失防止性能を確実に向上させていくためには、政府、製造事業者等、ユーザーの関係者の積極的かつ継続的な努力が不可欠であり、それぞれが取り組むべき事項について提言としてまとめている。

○参考:総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー  
小委員会 建築材料等判断基準ワーキンググループ 委員名簿

【座長】

田辺 新一 早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授

【委員】

池本 洋一 (株)リクルート SUUMO 編集長  
井上 隆 東京理科大学 名誉教授、東京電機大学 客員教授  
岩前 篤 学校法人近畿大学 副学長・建築学部長  
加藤 徳子 (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント  
相談員協会東北支部・青森分科会代表  
鈴木 大隆 (地独)北海道立総合研究機構 理事  
中村 美紀子 (株)住環境計画研究所 主席研究員  
二宮 秀與 鹿児島大学理工学域工学系 教授  
前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授  
望月 悦子 千葉工業大学創造工学部建築学科 教授  
山下 ゆかり (一財)日本エネルギー経済研究所 常務理事

※取りまとめ公表時(令和4年10月14日)の委員・役職名